518　中央大学記事（第三十三回卒業式・維持基金払込額及び氏名）

〔『法学新報』第28巻10（324）号　大正7年11月1日〕

○中央大学記事

○第三十三回卒業式　既報の如く第三十三回卒業式は新築校舎落成の上挙行する為め延期しありたるか今や工事既に竣を告け新学期も新校舎にて開始したる次第にて愈々去月十二日午後二時より大講堂に於て卒業式を挙けたり定刻卒業生其他来賓一同の著席するや岡野学長より卒業証書並に褒賞を授与し（併せて実業同窓会寄贈の記念品を授与す）了て卒業生に対し本号巻頭に掲けたる訓辞を与へらる之に対して法科卒業生総代白旗松之助氏は左の如く

維時大正七年十月十二日我中央大学ハ生等ノ為メニ第三十三回卒業証書授与ノ盛典ヲ挙ケラレ朝野貴賓ノ賁臨ヲ辱ウシ懇篤ナル学長閣下ノ高諭ヲ拝ス生等ノ栄誉何ヲ以テ之ニ代ヘン回顧スレハ生等本学ニ学ヒテヨリ既ニ三星霜常ニ質実剛健ナル校風ニ浴シ学長閣下ノ厳粛ナル監督ト講師諸先生ノ懇切ナル薫育ヲ受ケ恰モ赤子ノ慈母ニ抱カルル思ヒアリシヲ今ヤ之ヲ辞シテ激波澎湃タル活社会ニ出テントス転タ感慨ニ堪(堪)エス惟フニ法学ノ研鑽ハ究ムルニ従ヒテ疑義愈々加ハリ渺茫トシテ涯リナキカ如ク世路亦崎嶇トシテ蹉躓シ易シ今学長閣下ノ訓諭ヲ辱ウス生等堅忍不抜此主旨ヲ遵奉シ孜孜トシテ努メ汲汲トシテ励ミ鴻恩ニ酬ユルノ日アルヘキヲ期ス然レトモ生等資性不敏爾後学長並ニ諸先生ノ指導誘掖ニ待ツモノ益々多カルヘキヲ信ス仰キ願クハ旧ニ依リ永ク高教ヲ垂レ賜ハムコトヲ茲ニ法科卒業生ヲ代表シ謹ミテ愚衷ヲ陳ヘ答辞ト為ス

大正七年十月十二日　法科卒業生総代　白旗松之助

次に経済科総代田村芳造氏は左の如く

維時大正七年十月十二日我中央大学ハ生等ノ為メニ卒業証書授与ノ式ヲ新校舎ニ挙ケラレ朝野貴紳ノ賁臨ヲ辱ウス洵ニ生等ノ光栄トスル所ナリ回顧スレハ生等本大学ニ入リ業ヲ受クルコト茲ニ三年学長閣下ヲ始メ講師諸先生ノ懇切ナル指導ヲ蒙リ魯鈍ニ鞭チテ卒業ノ栄ヲ担フコトヲ得タリ師恩ノ高大ナル生等謝スルノ辞ヲ知ラス今ヤ欧洲ノ戦乱ハ四星霜ニ亘リ世界ノ列強尽ク其渦中ニ投スルノ観アリ戦後ニ於ケル世界益々多事ナルハ今ヨリ之ヲ想見スルニ難カラス生等此時ニ際シテ業ヲ卒フ其負フ所ノ任ヤ重且大ナリト云フヘシ生等学長閣下ノ訓辞ヲ拝聴シテ感激ノ至リニ堪ヘス自今益々奮励努力以テ高諭ニ副ハンコトヲ期シ謹テ白ス

大正七年十月十二日　経済科卒業生総代　田村芳造

次に商科卒業生総代小林武雄氏は左の如く

時維レ秋高肥馬ノ好季節ニ際シ我大学ノ新校舎竣リテ茲ニ第三十三回卒業証書授与ノ盛典ヲ挙ケラレ朝野ノ貴紳堂ニ満ツ生等ノ光栄何物カ之ニ加ヘンヤ

生等ノ始メテ本大学ニ入ルヤ諸先生ノ懇篤ナル淳淳教ヘテ倦

マス爾来五星霜其間或ハ校舎ノ祝蝕(融)ノ災ニ罹リ或ハ敬慕スル学長ヲ喪フ等災害屢至ルト雖モ当局ノ努力ハ些ノ渋滞ヲ来サス幸ニ今日卒業ノ栄誉ヲ担フテ得タルハ顧ミテ其師恩ノ深ク且高キニ感佩セサルヲ得ス

今ヤ世界ノ戦乱モ漸ク其終尾ニ近キタルカ如シト雖モ経済界ノ前途ハ是ヨリ益々紛糾シテ愈々複雑ナラムトス此時ニ当リ生等業ヲ卒ヘテ母校ヲ出ツ其任ノ重大ナルヲ想ヘハ転々悒忸タラサルヲ得ンヤ

今学長閣下ノ訓辞ヲ辱ウシテ生等ノ感激措ク能ハサルモノアリ益々発奮黽勉貫意ヲ体シテ社会ノ激浪怒濤ヲ排シ何レノ時カ彼岸ニ達セムコトヲ期ス茲ニ商科卒業生ヲ代表シ聊撫辞ヲ述ヘテ答辞ト為ス

大正七年十月十二日　商科卒業生総代　小林武雄

各答辞を朗読し斯くて文部大臣中橋徳五郎氏登壇して『諸君私は明治二十年頃四五年間此中央大学の前身たる英吉利法律学校東京法学院と申しました時分に教鞭を執つて居つた一人てあります今日参りまして皆様の御顔を拝見し又学長の岡野君は実は大学に居つて四年間一緒の同窓の者てあつたのてあります馬場判事も創立以来のお馴染てある往時を追懐致しまして皆様にお目に懸りますと英吉利法律学校の講壇て其当時の学生諸君の御顔を拝見するような心持かする真に愉快に真に懐かしく感するやうな訳てあります先日岡野学長よりして本日新築か落成し落成以来初めての卒業式てあるから出て祝辞を申述へろと云ふことてこさいまして私は茲に諸君の前て祝辞を朗読するの光栄を有します』との挨拶の後左の祝辞を朗読せられ

中央大学先年祝融ノ災ニ罹リシモ当事者ノ励精ニ依リ遂ニ克ク再築ノ功ヲ竣ヘ茲ニ本日ヲトシテ新校舎ニ卒業ノ式典ヲ行フニ至レルハ寔ニ本大臣ノ慶賀ニ勝ヘサル所ナリ

卒業生諸子諸子研学多年今ヤ本校卒業ノ栄ヲ荷ヘリ是レヨリ進ミテ社会ノ実務ニ励精シ或ハ更ニ学理ノ蘊奥ヲ極メ以テ国運ノ発展ヲ資クルハ実ニ諸子ノ任務ナリト言ハサル可カラス況ンヤ欧洲大戦ノ終局未タ逆睹スヘカラス世界ニ於ケル日本ノ地位ハ益々重且大ナラントス冀クハ諸子ハ其責任ノ軽カラサルヲ自覚シ人格ノ修練ニ努メ本校教養ノ旨趣ヲ完ウセンコトヲ

之ヲ以テ祝辞トス

大正七年十月十二日　文部大臣　中橋徳五郎

次に日本勧業銀行総裁志村源太郎氏は左の如く祝辞を述へられ閣下並に卒業生諸君、私は今日中央大学の卒業式の盛典に際しまして、唯今学長より伺ひまするとと、極めて長い三十有余年の歴史を有ち、而して最も尊重すへき学風精神を有つて居らるる中央大学に於きまして、前途有望なる卒業生諸君に向つて一言致しますること、真に私の光栄とする所てあります、然るに私は不断算盤を持つて俗務に従事して居る者てあります、従つて平素諸君かお習ひになるやうな深遠なる学理、若くは御参考になるへき事柄を申す丈けの頭かこさいませぬ、何の為めに私か此席を汚したかと申しますと他てはありませぬのて、私の平素敬慕して居ります所の岡野学長より、

此卒業式に於て一言せよと云ふ御命令を蒙りまして、之に返す辞かありませぬので、乃ち此所に出ました次第であります、依つて此場合に於きまして有益な御話を致すことは何等期待致さぬのであります、唯平素紛紛たる俗務に従事致しまする私に於ても、どう致しましても諸君に一言しなければならぬ事柄かあるのでありまして、これは何てあるかと云ふと、先刻学長及ひ文部大臣閣下の御祝文の中にもありました通り時局重大と云ふ一事であります、此時局重大と云ふ事柄は、私は政治家の言はれる意味を以て申すのではないので、もう少し違つた意味、もう少し広い意味で申したいのであります、抑此度の世界の大乱、此影響は我日本の国には比較的好い影響であります、今日迄吾吾は比較致しますと常に好結果を収めて居ると申して宜しいのであります、併し今後の状態を考へますと、如何にも其変化の重大なることを予想致しますると懸念に堪へぬと存するのであります、此意味か即ち私の申します時局重大と云ふ意味であります、卒業生諸君は伺ひますれは既に各々志す所に御従事てあるさうてあります、然る以上は時局の重大なることを心にお留めになりまして、願くは国民の一人として此変時に際して十分に国家に貢献せられむことを希望するの余り、私の俗な頭からして、所謂時局重大とは如何なるものであるかと云ふことを一言させて戴きたいと存するのであります

此大乱の結果、今まで各国の政府、国民、学者も俗人も、何人も出来さうもないと思つた事柄を各国共に試みました、即ち戦時の急に応するか為めに意外なる事柄を著著実行して居るのであります、旧来の学理、旧来の学説から申しますと到底行はれない事柄をどしどし実行して其成蹟を挙けて居ることは諸君の御承知の通りであります、唯今学長の御列挙になりました事柄ても既に数箇あつたのであります、先つ法律科の方は御心付てありませうが、仕払延期の法律なとか果して出来ることてあるか、平常の場合に於ては到底想像のつかぬことてある、国民全体に法律を出して、借金を返すのを延期して宜しいと云ふ法律なとはとても行はれさうもないのであるが、それを戦争が始まると同時に各国とも実行致しまして、私の記憶する所ては仏蘭西の如きは今以て実行して居ると思ふのであります、それから尚ほ経済方面に於きましても各種の管理、或は食物の管理とか、衣服原料の管理とか、政府か食物を一手に集めて、国民をして其命令する所の値段に於て、其命令する分量に於て之を供給すると云ふやうな事柄は到底平時に於ては行はれないことであります、又従来人権を重して兵役の義務を認めなかつた国民をして、兵役に服せしめて之を戦場に出すと云ふやうな事柄は到底想像出来ないことであるが、御承知の如く英吉利ても亜米利加ても、あの自由国に於て断行して而も成蹟を挙けて居るのであります、又婦人の労働の如きも斯の如くに手広く致すと云ふことは中中想像か出来なかつたのであります、然るにも拘らす今日は各国とも之を行つて居まして、市中の電車の運転から、切符切りから、一切の事に婦人を以て充て男子の欠乏を補つて居ると云

ふことを聞くのであります、又租税の徴収、是等の如きも戦時所得税とは申しながら、各人の得ました所の収益の半分以上、十分の八までも政府へ取上げると云ふことは到底出来ぬことであつたのでありますが、是も戦争の必要に応して今日実行して居るやうに聞くのであります、其他輸出の制限、輸入の制限、各種の事柄か頻頻として出て参りますが、是は従来難しとする事柄を容易く行つて居るのであります、欧羅巴各国か、而も世界の文明の指導者である各国か、斯の如き政策を断行して戦時の急に応しましたが、此事柄は戦後は直にお終ひにして仕舞ふ、あれは一時のことて今後は無いと言つて忘れたる如く放擲するものであるかどうか、是は問題たらうと思ひます、従来の人権論、従来の経済学説から申しますと、出来ないと言つて顧みないことを実行して而も成蹟を挙けた以後に於て、而も戦後に於て列国の競争激しからむとする時に於て、それを忘れたる如く放擲したらどうてあるか、此点か大に留意しなけれはならぬことてあると思ふのてあります、加ふるに最も注意しなけれはならぬと思ひまするのは、最後に至つて交戦国に加はつて参りました亜米利加の態度てあります、此国は極めて自由な国て、即ち欧羅巴の窮屈なる政治に倦きて、或は独逸国の如き兵役の為めに非常な圧迫を蒙るやうな所の羈絆を遁れて、さうして亜米利加に行つて楽な暮しをしやうと云ふやうな意味の人か各国から集つてあの国か出来たものてあると大体に於て了解して宜いと思ふのてあります、而して此所に集まつた人民と云ふものは多く他の自由の制度を利用致しまして、実業、商売、金儲け、其方に熱心して居つたのてあります、亜米利加の富の計算其他のことは、日本と比較しますると、残念なから何十倍の生産、何十倍の輸出貿易、此非常なる発達を致したと云ふものは、自由の天地に於て十分に手を伸して活動か出来、生産を致しました為めにあの富を得たものと思ふのてあります。其国の富の結果か或は欠陥の充実、物資の供給に現はれ、或は造船、或は穀物の充実其他の事に現はるるのは殆と驚くに足らぬと思ふのてあります、殊に驚くへきは彼の国民の気風てあります、ウイルソン大統領か昨年の四月てありますか交戦布告をして其後の模様を見ると、挙国一致、金儲けの外に趣味のなき拝金宗の人達か其平生の宗旨を捨て全然一つになつて何を言つて居るかと云ふと、曰く人道、曰く自由、弱を助ける義侠心、斯う云ふ精神的の方面に一致して居りまして、其為めに自分の衣食に対する不自由を忍ひますし、其為めに進んて戦場にも出て行つて有ゆる犠牲を払つて、何をして居るかと云ふと人道、其他の高尚な所謂精神の発揮、之に挙国一致して居ると云ふ事柄は、各国の頗る驚嘆して居る所てあると思ふのてあります、亜米利加か英吉利なり仏蘭西なりに物資を供給すると云ふ事柄、若くは兵員を供給すると云ふ事柄は、私は英仏の国民は無論非常なる助けとして十分に歓迎することてありますが、此事柄か今日の亜米利加の勢力の源泉てあるとは私は思はぬのてあります、独逸か最近に亜米利加に講和の申込をして、何か亜米利加が聯合国の旗頭てあるかの如

く取扱はれ又聯合国も亜米利加の大統領の顔つきを見て居ると云ふ事柄は何てあるかと申しますと、私は其重きを為す所の重もなる原因は、所謂人道、普通の利益とか、利殖の観念をかけ放れた高尚なる精神、高尚なる主張が、如何にも各国をして頭を垂れて服従せさるを得ない原因てあるかと思ふのてあります、亜米利加と云ふ国は私の諸先輩から伺ふ所ては、各国の寄り集りの一箇の団体てあつて国を成して居らぬ、地理上の一の区域てあると云ふ位に伺つて居つたのてあります、あの国には独逸人も千万を以て数へる程居るし、英吉利人も無論建国以来沢山居る、其他伊太利人、スラヴ人、各種の人種か集つて居るから、迚も一国として纏つた形を成すことは出来ぬと云ふのが、戦争以前の或一部の判断てあつた、又左様に解釈せしめられて居つたのてあります、然るに此戦争の成蹟を見ますと、各国民の集合と云ふ事柄か却つて亜米利加の大を致す所以になつたかと思ふのてあります、是は私一己の解釈てありますから諸君の御批判を願ひたいと思うふのてありますが、何を以て斯く言ふかと云ふと、此度の戦争は吾吾経済社会に居ります者から見ますと経済上の利益、国利の争ひ、何方か優者になるかと云ふ争ひに胚胎して居るかの如く考へられるのてあります、即ち英吉利と云ふ国に対して独逸と云ふ新興国か取つて代らう、取つて代らせまい、斯う云ふ争ひから致しまして此度の大戦は起つたかと思はれるのてあります、此に於て此戦争の途中迄を見ますと、或は巴里の経済会議にしても其他の主張を見ましても、どう致しまして、縦令平和を結んても材料の供給、輸出輸入の貿易に於て、聯合国には十分便宜を与へるけれとも、独逸、墺地利の方面には不便を与へやうと云ふのか巴里の経済会議の精神てあつたかと思ふのてあります即ち之を打割つて見ますれは矢張り一国一民族の利益を念として居つたものてあります、縦令平和会議の後ても矢張り区別を付けやう、さうして自分等の仲間は特に利益しやうと云ふ趣意か籠つて居つたかのやうに私は想像するのてあります、然るに亜米利加か加はつた以来、彼の唱へる所は何てあるか、所謂人道、極めて自由、極めて公平にしやう、斯う云ふのてあつて亜米利加は依然として巴里の経済会議の精神を認めないのてあります、さうして英吉利其他の国は亜米利加に服従せむとしつつあるのてあります、此一国の利益、一国民の利益に超越致しまして、世界的の利益を唱へる亜米利加の精神が、最後の勝を占めんとする状態は何てあるか、即ち亜米利加と云ふ国は私の解釈する所ては、各国民の集合体てあるか故に、一国民を戦後に於て利益しやう、或は一国を戦争に於て特に困らせやうと云ふ事柄は亜米利加の如き集合的国家に於ては採らない論てある、斯の如きは国民を率ゐる所以てないと云ふのか亜米利加の先覚者の脳髄を支配する思想かと思ふのてあります、即ち従来各国民の集合てあつて、一国を成すに足らぬと認められて居つた所が、焉んそ知らん一国一少部分の利益を超越した人類の向上改善と云ふ大なる精神を打出す一つの凝まりになつて、是か最後の勝を占める精神てはなからうかと自分は考

えへるのであります

私の唯今まで申しました事柄は、此大戦局の変化の唯一少部分を申すので、物質的の方面に於きましても、戦時中各国か為しました所の各種の設備、施設と云ふものは、戦後に於きましても其幾分は平時の施設の参考として、平時の施設の材料として行はれるてあらう、又此戦争の齎らしました精神上の変化、所謂亜米利加の唱道致しまする人道とか自由とか云ふやうな、此精神は戦後にも必す残らうと思ひます、抑々今日の塹壕戦に於きまして、世界の優良なる国民は此塹壕の中に立籠つて、例へは月の明るい晩、若くは暗い晩に、熟々自分の故郷のことを思ひ、又世の中の事を思ひ廻らしましたならは、何の為めに人類か斯の如き行動を為して互に殺し合ひ、互に富を潰し合つて、何の益する所かあるのてあるかと云ふ観念、即ち哲学的の観念を起さすには居るまいと思ふ、昼間は戦争其他のことて忙しいので、鉄砲玉の来ることや其他の事に気を取られて居りませうが、心の落付いたときに熟々思ひを廻らしたならは、何の為に斯の如く惨酷なることか起つたのてあるか、而して其やつて居ることか人類の幸福てあるかどうかと云ふこ(ママ)ことを考えへすには居るまいと思ひます、昔我国の戦国時代の武士には哲学的の観念を起し、宗教を修め、遂には自ら仏門に入つた人かあるやうてありますが、凡そ一方に於て極端に殺伐なる人は、一方に於ては、人定まりて熟々思ふ時には何か哲学的の観念か起らうと思ふのてあります、此四个年に亘つた殺伐なる人類の闘争の間に於きまして、世界各国の優良人種か集まつて、其中には学者も居りませう、学生も居りませう、各種の人達か兵役に服して戦闘に従事して居るのてあります、是等の人達か再ひ斯の如き戦争の起ることを構はすに、是は一時のことてあつて、今後も斯う云ふことをやるたらうと云ふやうな仕組に満足すると云ふことは、私はどうも想像かつかぬのてあります、必すや此戦場に臨みました所の英仏米独其他各国の人達も、此大戦の後には、最早斯う云ふやうな無駄な、惨酷な人類の争ひは無いやうにすると云ふことを考へるのか当然てあるたらうと思ふのてあります、私は決して平和論とか何とか云ふやうなことてはない、要するに哲学的の変化、精神上の変化は二十世紀の初めに於て大に来つて居ると思ふのてあります、これか国際的の方面に起きまするか、独逸か従来執つて居つた各国孤立の状態に復しまするか、それは分りませぬが、兎に角精神上に於ても、世界人類に大変化か来りつつあると思ふのてあります、況や物質上に於ては唯今申します通り非常なる変化を来し、又来さむとして居る時てあります、即ち私の申します時局重大と云ふ時てあります、故に我帝国は、現在は世界の騒乱の結果、比較的好影響を受けて居りますけれとも、今後に於ては決して良好の影響のみには止まらぬ、此大変化の影響に付ては、精神方面に於きましても物質方面に於きましても余程警戒すへきものかあると存するのてあります

卒業生諸君は、此時局に際しまして我帝国の各種の業務に従事されるのてありますから、諸君は十分に此時局の重大なる

事を念頭に入れられて、各々其事業に努められむことを切に希望致します、而も尚ほ其上に御一考を願ひたいのは、思想の向上に心を用ひられて、眼界を広くせられむことを希望するのであります、世界の変化の重大なることは迚も私の訥弁を以て御説明を申上げることは出来ませぬのでありますが、諸君に於かれても此変化の重大であると云ふことに御同感であります以上は、成るへく知識を広く持たれて、思想を高尚にお有ちにならむことを偏に希望するのであります、其為には私は諸君に向つて、釈迦に説法ではありますけれとも、御卒業になりました後の読書、本を読むと云ふことはどうしてもお止めになつてはいかぬと存するのであります、古人の書は其人の思想を高尚に致すやうに思ふのであります、今人の書は其人の知識を広くするやうに思ひます、古人の書も又今人の書もともに眼界を広くするものと思ひます、私か卒業生諸君に切に希望致しますのは、日日御従事になる職務に熱心に御鞅掌になるのみならす、学校に於て御苦心になつたと同し精神を以て、同し努力を以て読書に従事せられむことを希望するのであります

甚た不用意な、而して纏まりの付きませぬ事を申上けましたが、要するに諸君の御卒業になりましたことに対しまして、一言の祝辞に代へて御挨拶を申した次第であります（拍手）

次に法学博士山田三良氏は講師を代表して左の祝辞を述へられ

私は諸君の目出度き卒業式に際しまして、講師を代表して一言祝辞を述へるやうにと云ふことを学長閣下から御依嘱になつたのであります、先輩の講師諸君か多数お出になるのでありますから、さう云ふ御方に願ふと真に都合か好かつたのでありますが、折角の御指名でありますから固く辞しましても失礼と存しまして御請は申したのでありますが、既に学長閣下から御懇切なる御訓示かあり、又文部大臣閣下、志村源太郎君等から、有益なる御演説若くは御懇切なる御祝辞等のありました上でありますから、講師と致しまして別段に事新しく附加へて申すことはないのであります、又学生諸君に於かれましては吾吾講師の言葉は三年以来既に耳か胼胝になる程お聴きになつて居るのでありまして、今又重ねて此席でまて聴くと云ふことは、寧ろ諸君の苦痛とせらるる所であらうと思ひます、でありますから唯お目出度いと申す外はないのでありますけれとも、特に他の御方に代つて云ふことになりますので、私一人ならは是て御免を蒙るのでありますが、学長閣下の御指名になりました意思を多少見計らひまして、一言卒業生諸君に、二三分の間、無用であるへき筈の祝辞に当るへきものを附加へて申すことを許されたいのであります

それは時間かありますれは其事をよくお分りになるやうに申上けたいと思つて居りますが、既に時間も進行致しまして日将に暮れなんとする時でありますから、極めて略して申しますことは、諸君は今まて三年の間此学校に於て修学せられたのでありますが、顧みますれは小学校以来既に十数年間学窓にお居てになつたので、僅か三年四年てはないのであります、此多年の間に何を得たかと云ふと、一口に申せは諸君の修学

時代てあつて、他から受入れられたと云ふ事ばかりてあつたのてあります、然るに今後はとうてあるかと云ふと、大学を出らるるや否や社会各方面に活動をせらるるのてあります、諸君の活動と云ふことは何てあるか、今迄と違つて、受入れると云ふことてなくして、自ら進んて社会国家に活動せらるると云ふことてあります、活動と云ふことは色色なことを総称することてありますけれとも、諸君のやうな高等教育を受けられて、最高学府を出られたと云ふ諸君の活動は、他の普通の人間の活動よりも、其責任か一層重大てあります、外国の言葉にも名誉は責任を持来らすと云ふことかあります、諸君は学校を卒業せられ、立派な、識者として世の中に立つのてありますから、社会に於ける諸君の活動には自ら責任か伴はさるを得ないのてあります、其責任は諸君の職業の如何には依らないのてありまして、進んて官吏になられませうが、或は実業界に従事せられませうが、其職業如何か人の高下品評をするものてはないのてあります、全体世界に於ける如何なる事てありましても、善きことは善きこととして絶大の価かあり、悪いことは悪いこととして絶大の価かあるので、職業に依つて責任の帰著かある訳てはないのてあります、諸君はどんな職業に従事せられるにしましても、諸君か高等専門の教育を受けられた以上は、それに伴ふへき責任を自覚せられなくてはならない筈てあります、其責任は一口に申せは諸君か世の中に出られまして周囲に仕へられると云ふことてあります、今迄は親の懐ろにはぐくまれて成長せられました、謂はは他から可愛かられ、大事にかけられて居つた、それか学校を出て社会に活動すると云ふことになりますと、諸君はどの方面を御覧になつても仕へ奉らなくてはならないと云ふ地位に置かれたものてあります、父母に仕へ奉り、国家に仕へ奉り、社会一般に仕へ奉り、社会文明に仕へ奉つると云ふのか諸君の是からの活動てあります、此文明の奉仕と云ふことは一口に申せは諸君の活動てありまして、又それか諸君の大に光栄とし、名誉とし、幸福とせらるへきことてあります、併し此に於て諸君の御注意を願ひますことは、国家社会に貢献する、世界文明に奉仕すると云ふことは大変賞賛すへきことてあつて、詰り御褒美を戴くへきやうな事柄てあるとのみ世人は考へて居る、退いて考へて見ますと斯の如き考へは正当てはないのてありまして、実は吾吾人間は御互に自己に対してしなくてはならない厳粛な義務てあると云ふことを自覚せなけれはならぬと思ふのてあります、人類か文明に奉仕する、斯う云ふことは我を生みし天地に対しても、生れた我自身に対しましても真実の、厳格なる我か義務てあると感することが何より大切てあらうと思ふのてあります、是は何故自己に対する義務てあるかと云ふことは色色な方面から説明は出来ますけれとも、今茲に説明する時間かありませぬから、唯手近い一例を取つて申しますと、吾吾か今日斯の如くに活きて居るかと云ふか為めには、どれたけ天地か我を色色な方面に於て恵んて居るか、是は実に偉大なことてあります、我に与へられた衣

食、我生活、我生命を斯の如くに与へられたと云ふことは、如何にも天地の恩恵に重く深く浴して居ると云ふことは自覚をしなくてはならない筈てあります、単純に吾吾の衣食住と云ふことから見ましても、吾吾か若し諸君に対して、諸君と吾吾は人の墓を発いて屍骸を食つて仕舞ふと言つたならば、如何にも残虐なるものてあると云ふことを痛罵せらるるたらうと思ひます、併なから諸君、お考へになつて御覧なさい、吾吾は屍骸の中に活きて居るものてある、屍骸を枕とし、屍骸を家とし、屍骸を食として居るものてありまして、一切我生命と云ふものは周囲の屍骸に依つて支へられて居るのてありませぬか、我著物を見ても何を見ましても皆屍骸てあります、是等の屍骸と云ふものは吾吾は何の権利かあつて之を取ることか出来るのてありますか、世の中には金持か我金てある、或は我物てあると斯う言ひますけれとも、黄金は山を成して居つても一尾の魚も拵へることか出来ないのてあります、如何に財産かあつても、天地の意思に適はなけれは何物も製造することは出来ないのてあります、さうして見ますれは我は金かあるから何ても勝手てあると云ふことは到底許されないことてあります、若し徒に食ふと云ふことてあれは、一粒の米も一尾の魚も到底食ふ権利かないと云ふことにならなけれはならぬ、然るに我生命か安全に活きて居ると云ふことは、吾吾か周囲の物を生命の為めに犠牲に供する事を許されて居ると云ふ大なる意味かあるからてあります、即ち一尾の魚と雖も我口の中に入つたならは、我生命と同化して、更に善き生命を得んか為めに外ならないのてあります、吾吾人間か斯の如く万物を犠牲に供することを許されて居ると云ふことは、今日より明日、一歩たりとも高尚なる文明を来さむか為めてあります、若もそれか出来ないならは、吾吾は自分の生命をも続ける権利かないと云ふことを自覚しなくてはならない筈てあります、斯く考へて見ますと今日吾吾か斯うして活きて居ると云ふことは、如何に周囲の物から恵まれて居るか、さうして非常に幸福なることを自覚しなくてはならい(ママ)筈てあります、さう致しますと我を生みし父母の有難きことの如き、我安全なる生活と生命財産を保護する国家社会の有難きことの如きは固より論を俟たないてはありませぬか、従つて其恩に報ゐるか為めに自ら向上発展すると云ふことを考へることか吾吾人間の義務てある、殊に高等の教育を受けたる諸君と吾吾との義務てあらうと信するのてあります、此義務を遂行することか出来ますれは、諸君の幸福は自ら来るのてあります、此義務に努力奮闘せられると云ふことかありましたならは、諸君の光栄は自ら来るのてあります、併なから自覚かなくて、義務の遂行にあらすして唯社会に活動せられると云ふならは、御気の毒なから諸君の精神的生活は段段堕落の方向に傾くのみてある、斯く云ふことてあらねはならぬのてあります、唯今志村君か亜米利加人の精神を驚嘆せられましたが、是は世界人類の総てか驚嘆して居る所てありますが、亜米利加は国を成さないやうな国民てありましたけれとも、大人格者ウイルソンは、文明に奉仕するは人類の義務て

ある、数百万の命を殺すのは無意味に殺してはらない（な脱カ）、之に意義あらしめなければならぬ、人類社会に幸福を来さしめむるか為めに黙視するに忍ひすとして蹶然として起つたのてありますから、亜米利加こそ文明に奉仕することを最も痛切に自覚して居る国民てあります、我国民の如きさう云ふ危難に際して果して斯の如く文明に奉仕することか出来るや否や、甚た疑はしいことてはないかと思はるる程てあります併し我国民は此点に於て歴史上世界に卓絶した国民てありますから、吾吾か諸君と共に、社会多数の者か文明に奉仕すると云ふことを、国民をして今日よりもう一層痛切に自覚せしめると云ふことに各努力したならは、茲に諸君の生甲斐のある生活、光明ある前途か開けて来るのてあらうと信するのてあります、一言以て祝辞と致します（拍手）

次に法制局長官横田千之助氏は左の如く祝辞を述へられ

私は今より二十三四年前に当大学を卒業した者てあります、今日は佐藤氏より、久し振りて学校へ来て此三十三回の卒業式に一片の祝辞を読上けろと云ふことてあります、非常に劇忙の際てありますが祝辞を読上けるたけの責任を負ふた訳てあります、参りました所か祝辞は出来て居らぬ、弁護士もして相当に口か利ける筈てあるから何か祝辞を諸君に向つて申したら宜からう、実は私は二十年前、擬律擬判の討論会か中央大学にありまして、それか多勢の前て口を利いた初めてあります、其時に丁度故人となりましたが松野貞一郎先生が、岡野先生か此所に居られるやうに、表を持つて居られたことかあるのてあります、此所に立つて岡野先生を後ろに見ると云ふことは、丁度生徒か先生の前て試験ても受けるやうな心持かするのてあります、此所に立つ二十余年前に擬律擬判の討論会の演壇に立つたことを想ひ起すと、平素相当に喋舌れなくも、人並以下まては喋舌れる人間も真に当惑する次第てあります、併し此所に立つた以上は、唯お目出度いと云つて引退つては如何にも呆気ない、如何にも中央大学の卒業生としての権威にも関する、大なる奮発をしてぽつぽつ不順序に、纏まりのないことを御話致しますから、縦令私か是から御話をすることか如何に拙劣てあつても、如何に不論理てあつても平素はあはではない、岡野先生の前に於てこそ生徒の如くに諸君に向つて御話をする横田千之助も、世間に出ては左程のものてないと云ふことを諸君に御認めを願ひたいのてあります（笑声起る）

今卒業生諸君の先生に対する謝辞を熟々拝聴致しました、長い間学界に於て辛酸の労をお積みになつて、是から活世間にお出掛になるのてある、前途は澎湃たる波かあつて真に空ら怖ろしい、どうか之を乗切りたいと云ふ意味の文句かあつたやうに思つて居ります、如何にも其通りてある、殊に其後諸先輩、中橋文部大臣と云ひ、志村勧銀総裁と云ひ、山田博士と云ひ、実に活世間の現在の問題の変動の最も激しいことを屢々繰返して御説明になつたのてありますから、諸君は此点に付て可なり臆病風に吹かれて居るかも知れない、私も現に時局と云ふことを重大に見て居ります、非常に重大に見て居

ります、又非常に勇ましい、仕事の仕栄へのある時代とも見て居ります、私の見て居る欧羅巴の戦争の意義は、我党の先輩とも多少見解を異にして居る点もある、あるか私個人としては、此戦争は誰か何と言つても黄白両人種の衡の不平均を引直す手初めたと私は確信して居る、世界に対して重大な意義かあるばかりてなく、帝国の責任と云ふものか最も世界中て重いのてある、言ふ迄もなく東洋に国家らしい国家を有つて居るのは帝国はかりてあります、支那はあの通り、暹羅はあの通り、印度のことまて言ひますと、日英同盟の誼に照して或は何かの嫌ひかあるか知れませぬが、要するにああ云ふ調子てす、亜米利加のウイルソンか合衆国の大政治家として正義、人道を提唱して色色なことを言はれまするが、黄色人種に対してはどうなすつて下さるのてあるか、私は此意味に於て、詳しく言ふと政治論になります、時局の各方面、ウイルソンの演説の批評等になつて長くなつて困りますから要点たけを申しますが、要するに此意味からして日本は是から出発をせんけれはならぬ、今や欧洲の大戦はまる四年になつて独逸の講和の提唱、西部戦線の縮小した状態から、縦令此講和の提唱か米国の拒絶する所となつても、是か根底となつて結局一年の後か或は一年半の後かにはあの方面の講和のことか決定するたらう、長く見ても其位たらうと云ふのか各方面の識者の観察のやうに私は思ひます、成るほと欧羅巴の方面はさう云ふ調子に行くかも知れない、併し東亜の方面は私はさうはいかぬと思ひます、是は我党の先輩とも、朝野の識者とも多少見解を異にするが、私は直覚てさう思ふ、東亜の方面は露西亜かあの通り、支那かあの通り、此露西亜、支那、印度の三大陸地を連ねたる東亜の方面は、決して欧羅巴の方面に講和のことか一旦成立つても是て終局を告けるのてなく、是からそろそろ紛争の幕か開けるのてあると信して居る、此問題に対しましては黄色人種として別に侵略主義をやらうと云ふのてはない、長い屈辱から脱却しやうと云ふのてある、侵略主義と云ふやうな大それた考へは吾吾は有たない、長い間不平等の取扱を受けた所の黄色人種として、此代表的国家、代表的国民か驀然として此渦中に飛込んて、さうして何等かの仕事をすると云ふのは帝国を措いて何所にもない、帝国国民を措いて何所にもない、帝国国民中、同胞中の同胞たる中央大学の卒業生が其中堅にならんけれはならぬ

元来正義、人道、博愛、斯く云ふ掛声は真に結構てある、固より正義、人道、博愛の観念は人生に於て一日もなけれはならぬ、是は空気のやうなものてある、人生に空気は一瞬時も無けれは命を保つことか出来ない、併なから正義、人道、博愛の掛声たけては何事も出来ない、此正義、人道、博愛の掛声を実現するのには統一か最も必要てある、統一は力てあつて、力は即ち威（ママ）てある、此統一を保つて以て東洋に於ける帝国の責任を遂行して行かなけれはならぬ、此に於て岡野先生の仰つしやつた国民思想の動揺は統一には大の禁物てあります、この大大的の禁物てある岡野先生の仰つしやつた国民思想の動揺は、生活から来るか、横文字の翻訳から来るか、

何所に原因かあるかは知らぬが、兎に角さう云ふ風波か多少てもあるとしたならは、吾吾は精神的方面に於て之を撲滅して、新に日本の国運を荷ひ、日本の国命を深く承認する所の信仰を押立てねはならぬ、斯う私は考へて居ります、此意味に於ててす、此意味に於て行くと、多く論すると宗教論になり、哲学論になり、時間を長く要しますから唯要所要所のみを申上げるのてありますが、此意味から行くと諸君は狂瀾怒濤何かあらん、臆病風に吹かれることはない、勇気を揮ひ起して勇気の舵を取つて犠牲心、献身の心の船に乗つて行つたならは何事も打開くことか出来ると思ふ、私は曾て古の書を読みまして智仁勇の三徳と云ふやうなことも聞いて居ります、又福澤先生の福翁百話の中には勇気の貴いことを反覆叮嚀に教へてあつた、所か此時に私は三十前後て、どうも福澤先生は不思議なことを懇ろに言ふものてある、勇気なとは吾吾には充ち満ちて、勇気を如何に制限するかに困つて居る、斯う思つて居つた、所か三十以後に色色なことを企つて、覇気欝勃、野心満満とも言ひますか、種種なことをやつて見ると頻頻として蹉跌、動きもつかぬと云ふ時になると、今迄勇気凜凜、充ち満ちて居つて、人に分配てもしたいと思つて居つたのか、急に心淋しくなつて、抜殻のやうな調子になつた、此に至つて、成るほと若い中には勇気と云ふものにそれ程重きを措かぬが、愈々事に当つて失敗てもすると勇気甚た貴いものてある、残念たかどうすることも出来ない、勇気は何も平生腕を揮つて始終出して居る必要はないが、腹の中に始終蓄へて置かぬと、無事に平板な道を行く時には要らぬが、何事か為さうとして非常な困難に際会しなけれはならぬ、危険に会はなけれはならぬと云ふ場合に於ては私はつくづく勇気の貴いことを感したのてあります

然らは勇気は何に依つて養ふか、成るほと天来の勇者もありませうが、天来の勇者はかりはない、諸君の全部か天来の勇者と云ふ訳にはいくまい、さうすると勇気は何に依つて得るか、其勇気は何事に対しても犠牲心を失はないと云ふことてある。私は英雄豪傑、偉人に自分勝手の定義を附けて居りますが、要するに犠牲心の分量か人間のえらさの分量たと見て居る、犠牲心の分量か即ち人間のえらさてあると見て居るのてある、此犠牲心は何に依つて起るかと言へは、自分の腹の中に一つの信仰を確立しなけれはならぬ、此信仰か立つたならは訥弁も人を動かすの雄弁となることか出来る、此信仰か確立したならは怖るへき勇気か脳中に芽生へすると云ふことを私は信するのてあります、此信仰の本当に手に入つた人てあると、唯経文くらゐを読んて居る生臭坊主の説教なとと違つて空怖しいものてある、或本を読んたのてありますが、後白河法皇か往生要集と云ふ経文を各宗の高僧を招いてお聴きになつた、五六回お聴きになつた後に、法然上人をお招ひになつて同しことを聴いた、其時に後白河法皇は潸然として両眼に涙を湛へて、今退席せむとする所の法然上人を呼戻して御言葉を賜はつた、等しく往生要集の講演てある、説かれた者は各宗の高僧てあるが、茲に怖ろしい違ひかあると云ふの

は、法然上人は真に、仏教の方面から言へは仏陀を認めて、而して此仏陀の中に入つて、自分自ら信仰の化身となつて居つたからして、其講演か全く後白河法皇の霊気に感通したものと私は思ふ、是と同し意味に於て人に或「インスピレーション」を与へる、与へるには信仰の確立かなけれはならぬ、信仰の確立の中に犠牲の心を揮ひ起して、更に之に加ふるに勇気を以てし、さうして活世間に臨んたならは狂瀾怒濤も大したことはない、殊に帝国の責任は、屢々諸先輩か講演せられた通り、此重大なる時局に於て最も重い責任を有つて居る、此場合に於て基本を確立して進んたならは、帝国と諸君の前途は洋洋たる海の如くに開けて行くのてあります

私は弟分たる諸君の卒業式に際して、弟分たる諸君に向つて、尚ほ之を分類して大演説をしたいのてある、したいのてありますか先生の前ては若干の気おくれかある（笑声）、故に先つ今日は緒言たけをやりまして別の機会に於て、兄弟分はかりの会合に於て光彩陸離、万丈の気焔を吐くと云ふことを述へて此壇を降ります（拍手）

以上孰れも拍手の間に終りを告け是を以て式を閉ち来賓並に卒業生には各別室に於て茶菓の饗応あり其散会したるは午後五時を過く当日来賓中重もなる者は市丸喜一、池田清秋、石澤文五郎、乾喜代八、井上勝好、池田信治郎、稲葉清之助、岩淵秀男、岩崎眞、井上勝馬、岩井彌三郎、伊藤俊、馬場愿治、花井卓藏、林頼三郎、波多江善十、西野其弟、男爵穂積陳重、細田謙藏、堀江專一郎、星野輝廉、保坂榮之丞、本田善平、千葉彦治、千葉良胤、岡野敬次郎、大場茂馬、太田哲三、荻野對助、岡田淳司、大島恒治郎、小川忠兄、岡田伯、大松直重、及川故作、渡邊徹也、河野秀男、片山義勝、龜山要、川村貫治、川手忠義、加瀬和三郎、加藤正憲、勝野信彦、横田千之助、吉澤米造、横山慶朝、吉村長次郎、高根義人、高津鍬三郎、武田明、高野金重、谷村唯一、高野直一、丹藤博禧、土屋義行、辻本友次郎、中橋德五郎、中山强助、村上恭一、卜部喜太郎、梅原喜太郎、胡桃正見、雲田平太郎、久保義郎、窪田關太郎、黒川博、藥丸兼吉、山田三良、山田知晃、柳澤愼之助、山田茂三、山本角之助、松本烝治、牧野良三、前田定之介、松岡高明、松島昇、增村好郎、松原珪二、丸山松江、眞鍋八千代、松代六郎、松崎龜之助、藤谷乙三郎、小松林藏、小林武彦、後藤傳兵衛、永瀧久吉、海老原重、手塚光貴、青山衆司、天野德也、安部藤治、麻生和輔、新情二、佐藤正之、佐藤太平、湯澤眞太郎、三宅高時、三野頼次、宮崎三郎、志村源太郎、椎谷榮作、志賀三行、白尾清次、土方寧、廣井辰太郎、杉浦重剛、鈴木敏義、杉坂源清、鈴木東一郎、杉本初雄の諸氏なりし

○維持基金の払込ありたる額及其氏名左の如し

一金五円（十九回分）　石原毛登馬君
一金参拾円（一回分）　乾　喜代八君
一金壱円五拾錢（廿七回分）　井上　剛一君
一金五拾錢（十八回分）　石川　吉衛君
一金壱円（廿七回分）　今田鎌太郎君
一金五拾錢（十五回分）　岩瀬　脩治君

一金五拾錢（十一回分）　濱口　未喜君
一金壱円（十二回分）　芳賀　保彦君
一金壱円（廿九回分）　本田典太郎君
一金弐円五拾錢（十八回分）　細谷智之介君
一金壱円（廿五、六回分）　戸石　正憲君
一金五拾錢（十八回分）　戸田　承君
一金弐円（廿二回分）　富田祐太郎君
一金壱円（廿六回分）　千脇　尚德君
一金五円（自廿一回至廿五回分）　荻野　對助君
一金壱円（四、五回分）　小野龜次郎君
一金参円五拾錢（廿七回分）　大川　清一君
一金壱円（廿六回分）　大内省三郎君
一金弐円五拾錢（廿七回分）　尾崎　利中君
一金五拾錢（十九回分）　岡崎　一治君
一金拾円（十六回分）　大岩　勇夫君
一金五拾錢（十九回分）　岡　辨良君
一金壱円（廿六回分）　小野政太郎君
一金壱円（廿七回分）　金子保次郎君
一金弐円五拾錢（廿六回分）　樫谷　政鶴君
一金壱円五拾錢（三十回分）　川上定次郎君
一金弐円五拾錢（廿五回分）　上内恒三郎君
一金五円（十六回分）　川久保源治君
一金壱円（廿七回分）　加藤　一郎君
一金八円（自十八回至廿一回分）　貝塚德之助君

一金弐円五拾錢（廿八回分）　吉益　俊次君
一金五拾錢（廿五回分）　賴信藤四郎君
一金弐円（卅三、四回分）　田尻　隣造君
一金壱円五拾錢（十八回分）　田崎　慶一君
一金弐円五拾錢（十九回分）　高柳覺太郎君
一金五円（自四回至十三回分）　田村　貞君
一金弐円五拾錢（九回分）　高田鈒一郎君
一金五拾錢（五回分）　太宰　孝吉君
一金五拾錢（十三回分）　玉川　豐吉君
一金壱円（廿七回分）　副島寅三郎君
一金五拾錢（廿九回分）　筒井　雪郎君
一金五拾錢（十九回分）　中島　正堅君
一金五拾錢（十二回分）　中村　淑人君
一金壱円（十五回分）　中川眞太郎君
一金五拾錢（廿六回分）　上田　貞藏君
一金壱円（十六回分）　黑田　穰君
一金壱円（廿二回分）　國枝　鎌三君
一金五円（廿六回分）　安田勝次郎君
一金五拾錢（卅一回分）　柳田宗一郎君
一金壱円五拾錢（廿六回分）　山田　三郎君
一金壱円（七回分）　前田勝三郎君
一金弐拾円（七回分）　松村眞一郎君
一金弐百円（三回分）　松本　烝治君
一金壱円（十九回分）　牧野　充安君

一金五拾錢（廿六回分）　松澤常四郎君
一金壱円（十八回分）　丸山　熊八君
一金壱円五拾錢（十九回分）　丸山柯太郎君
一金六円（自廿五回至卅六回分）　古谷　伊平君
一金壱円五拾錢（五回分）　小菅　寅吉君
一金弐円五拾錢（十九回分）　手代木佑壽君
一金壱百円（一回分）　新井要太郎君
一金弐円五拾錢（五回分）　姉齒　松平君
一金弐円五拾錢（十九回分）　東兵右衛門君
一金弐円（廿五回分）　赤井　定義君
一金壱円（二回分）　澤村　直君
一金五拾錢（十四回分）　坂野竹之助君
一金弐円（廿六回分）　佐藤　章次君
一金壱円（廿六回分）　齋藤庄三郎君
一金壱円（十九回分）　佐々木清綱君
一金壱円（十七回分）　佐々木佐吉郎君
一金壱円（廿二回分）　坂本　萬作君
一金五拾錢（廿七回分）　木付　綱麿君
一金壱円（一回分）　木村競次郎君
一金五拾錢（廿六回分）　木村　壽平君
一金五円（卅一回分）　宮地　正影君
一金弐円（六十一、二回分）　峰松茂三郎君
一金弐円五拾錢（廿七回分）　蓑和藤治郎君
一金壱円（廿九回分）　宮澤要次郎君
一金壱円（十八回分）　水野　博德君
一金弐円五拾錢（十九回分）　白鳥保五郎君
一金五円（廿五回分）　白倉　吉朗君
一金壱円（廿七回分）　重藤　幹一君
一金壱円五拾錢（五回分）　重信喜太郎君
一金五拾錢（五回分）　島田久太郎君
一金五拾錢（十九回分）　島野　金吾君
一金壱円（卅一回分）　篠原四郎吉君
一金弐円（十八回分）　平尾　賢治君
一金壱円（廿九回分）　森　源作君
一金壱円（廿六回分）　杉原丈太郎君
（以下次号）